

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	トータルプロデュース 2	
科目基礎情報						
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース		開設期	後期
対象年次	1 年次	科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実習			
教科書/教材	ミュージッククリエイターハンドブック					
担当教員情報						
担当教員	野村 大輔			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的						
音楽制作、またミュージシャンとして必要な知識を幅広く学ぶ。現代の音楽制作ではデジタル化が進み、機器やソフトウェアの進歩が目まぐるしい中、それらのツールを適切に理解し、扱えるようになるために正しい知識を増やす。また現代の機器や情報を正しく扱うためにも、音楽制作の歴史を通じどのような発展をしてきたかを知り、今後の進歩に柔軟に対応できるよう豊富な知識を身につける。また、ミュージシャンとして必要なコミュニケーション能力の向上に向けて、音楽用語、必要機材、著作権など幅広いコミュニケーションツールをの理解を目的とする。						
到達目標						
現代の音楽制作にに必要な基礎知識を、それまでの歴史的なながれを汲み取りながら、適切に判断できることを到達目標とする。また、機器だけではなく、MIDI情報や音の伝達の仕組み、エフェクターなどの電気回路、著作権等の幅広い知識や教養を身につけることでミュージシャンとしてのコミュニケーション能力の向上を目標とする。そして音楽制作時に必要な情報を正確に取り入れるための基礎知識や、実際の扱い方などを理解し、自分が音楽制作をする上で何が必要かを把握することを目標とする。						
教育方法等						
授業概要	教科書、ミュージッククリエイターハンドブックに沿って講義形式で進行する。音楽制作に必要な機器や、ソフトウェア、MIDIやエフェクター、著作権など幅広い知識を取り入れることで、正しい情報を判断でき、実際の音楽制作に生かせることを目指す。また、現代の情報量の多さに対応するために必要な知識やコミュニケーション能力の向上を見込み、的確な情報処理ができるようにする。上級者も中級者も常に向上心を持って豊富な知識を身につけること目指す。					
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。					
評価方法	種別	割合	備 考			
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する			
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する			
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する			
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する			
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する			
授業計画（1回～15回）						
回	授業内容			各回の到達目標		
1 回	オーディオ機材とツール(3)			ミキシングを理解する。		
2 回	オーディオ機材とツール(4)			トラックダウンとマスタリングを理解する。		
3 回	オーディオ機材とツール(5)			エフェクトの種類とオーディオフォーマットを理解する。		
4 回	音楽理論とMIDIによる表現方法(1)			楽譜情報を理解する。		
5 回	音楽理論とMIDIによる表現方法(2)			楽譜情報を理解する。		
6 回	音楽理論とMIDIによる表現方法(3)			ポピュラー音楽のコードとスケールを理解する。		
7 回	音楽理論とMIDIによる表現方法(4)			ポピュラー音楽のコードとスケールを理解する。		
8 回	音楽理論とMIDIによる表現方法(5)			DAWソフトについて理解する。		
9 回	音楽理論とMIDIによる表現方法(6)			MIDIデータによる演奏表現を理解する。		
1 0 回	音楽メディアと著作権(1)			リリースについて理解する。		
1 1 回	音楽メディアと著作権(2)			著作権の種類を理解する。		
1 2 回	音楽メディアと著作権(3)			著作権を理解する。		
1 3 回	まとめ(1)			全体のまとめ		
1 4 回	まとめ(2)			全体のまとめ		
1 5 回	まとめ(3)			全体のまとめ		